

小規模自治体における公共施設マネジメント(ふじさとモデル) 取り組み概要

1. 取り組みの背景

■ 実施の背景 — 『ふじさとReデザインプロジェクト』について

藤里町は、秋田県の北部に位置し、青森県との県境一帯は標高1千mを超える山並みが連なる世界遺産の白神山地である。その北部一帯は国有林で町域の64.8%を占めている。平成の大合併では単独立町を選択し、現在の人口は3,100人で2040年には1,500人まで減少すると推計されている。

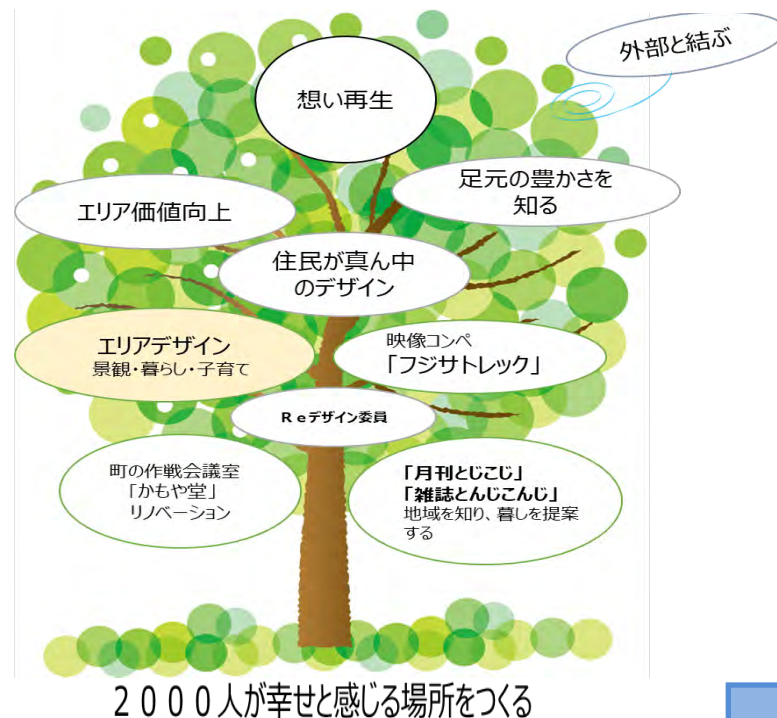
町民一人当たりの公共施設の延べ床面積は16.36㎡と大きくなっているが、7地区に集落が点在する中で地域コミュニティを維持していくためには単純な統廃合は困難であるなど小規模自治体に共通の課題を抱えている。

こうした中、平成27年から「ふじさとReデザインプロジェクト」として持続可能な地域づくりを目指した取り組みを進め、この中で公共施設等の効率的で適正な管理についても検討してきた。「ふじさとReデザインプロジェクト」は、世代を越えて愛着が持てる最適なエリア(景観・住み続けたい町の姿・暮らし方)をソフト面・ハード面、多様な視点から考えるプロジェクトである。これまで、取り組みの一つとして、既存公共施設や地域資源調査を行い、それに伴った新たなニーズに対応する長期のエリア構想図とロードマップの作成を行ってきた。さらに、公共施設マネジメント(ふじさとモデル)の仕組みを構築することにより、町有資産の有効的な活用や限られた資金での効果的な公共サービスを実現させる。



人口	面積	決算額	財政指標	公共施設
人口: 3,112人 (R2.8.31現在) 将来人口(R12): 2,137人	面積: 282.13km ² 人口密度: 11.9人/km ²	歳入: 3,646百万円 歳出: 3,486百万円 投資的経費: 666百万円	実質公債費率: 8.6% 将来負担比率: 38.7% 自主財源比率: 21.3% 経常収支比率: 83.0%	公共施設数: 219棟 延床面積: 57,764m ² 道路延長距離: 208 km

ふじさとReデザインプロジェクト



戦略	住民協働
組織	住民連携チーム
仕組み	域内循環に重点
スキル	外部人材連携
人材	町内人材育成
価値観	藤里ライフスタイル創出

地域の資産である公共施設を
適切にマネジメントし、活用する

小規模自治体でも可能な藤里町独自の
公共施設マネジメントの仕組み = 『ふじさとモデル』の構築

小規模自治体における公共施設マネジメント(ふじさとモデル) 取り組み概要

2. 取り組みのポイント

■「ふじさとモデル」のポイント

①職員による建物定期点検の手法の確立

➤ 建物定期点検のチェックリスト及び判定基準マニュアルの仕様作成

モデル構築の初年度において、専門家を招聘し点検時の専門用語を極力使用しない（仕様する場合は説明文を付記）形の判定基準マニュアルを作成したほか、チェックリストへの建物ごとに留意すべき点の項目を加え、できるだけ容易に記載でき統一した仕様にする事で、職員誰もが同じ視点で定期点検ができるようになった。職員自らが点検を行うことで、自分事となり現場と真剣に向き合い、利用者（町民）目線で建物の在り方を考えるようになった。建物への日常の目配りが増えた。

➤ 修繕（工事）費用の積算手法の設定

モデル構築初年度において、専門家チームによる藤里独自の「積算単価」（※）の設定し、この単価を用いて職員が改修費（工事費）を積算し施設修繕計画を作成することが可能となった。※秋田県の単価表及び建築物価及び労務単価、過去の事例をもとに設定。

②職員による施設修繕計画策定手法の確立

➤ 修繕計画の仕様作成

建物定期点検の結果を取りまとめ、3カ年の「施設修繕計画」を作成し、毎年更新を行い、更新した施設修繕計画をもとに、マネジメント会議で来年度以降の予算要求の優先順位を決定している。

➤ 全庁横断の組織形成（公共施設マネジメント会議）

副町長をプロジェクトリーダーとする各課係長による公共施設マネジメント会議を設置し、部門間の調整会議ではなく、実質的な合議、全庁意思決定の場ができた。また、所管課の壁を越え、1課、1係では解決できない課題の共有と協議および将来の大きな事業に対する共通した方向性を見出すことができた。

③施設修繕計画の具体化の検討

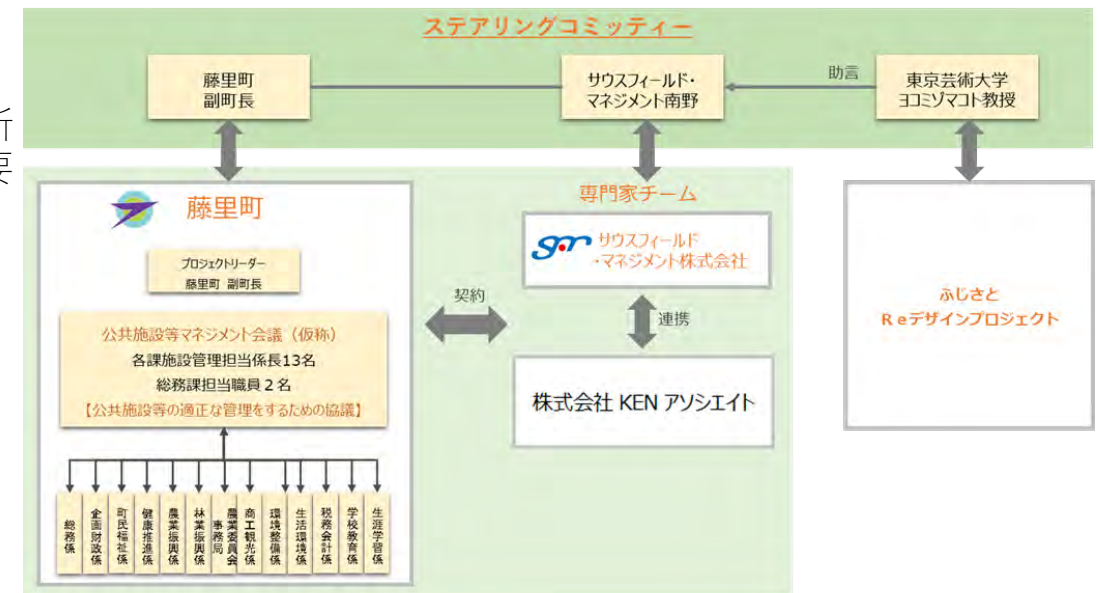
➤ 予算連動のしくみ構築

「施設修繕計画」を次年度当初予算へ連携させ、施設維持管理に関わる予算総額を一般財源予算の中から予算枠として確保している。「ふじさとモデル」では、改修費用の総額を将来の人口減少を加味した予算枠（目標予算）に設定しているため、将来にわたり財政力に応じた施設の維持管理予算が確保され、健全な施設管理が実施できるようになった。

④施設の修繕計画の修正・フィードバック

➤ 実施結果のチェック・フィードバック

予算計上した積算単価と実績額を比較し乖離を検証することで、施設修繕計画の精度の向上を図ることが可能となった。



小規模自治体における公共施設マネジメント(ふじさとモデル) 取組み概要

3. 藤里町の『公共施設マネジメントシステム』-「ふじさとモデル」の確立

■ 「ふじさとモデル」

藤里町で構築した公共施設マネジメントシステムは下記のプロセスを職員中心で実施できる仕組み。

- ・できるだけ簡単、安価で、フレキシビリティのあるシステム
- ・1年で1サイクルの継続的な仕組み
- ・全職員で情報共有できるシステム

● は、初年度のみ実施
● は、次年度以降も継続

